

70歳から始めた 再挑戦と父の記憶



渡島医師会
木古内町国民健康保険病院

しみず ひでかず
清水 秀和

私は一昨年春に国保病院を70歳で退職し、再雇用単年度職員となりました。少し時間と気持ちに余裕ができ、子供も巣立ち、人生の終わりが見えてくると、自分はどこから来て、残りの時間で何がしたいのか考えることが増えました。

長年気がかりだった疑問が二つありました。

一つ目の疑問：

50年ほど前の大学院時代に解決できなかった疑問の分析に一昨年から再挑戦しました。幸い、自治医科大学が手首式血圧計を使った睡眠中血圧変化の共同研究者を募集しており、登録終了まで残り1年を切っていました。自分でも研究用の同機種を購入し、東大の倫理講習会を受け、病院の倫理委員会の承認を得るなど、準備に4か月を費やし、夏を避けて一昨年9月に患者登録をスタートしました。残り期間は半年しかありません。自分なりの疑問を副研究（睡眠中の尿塩分変化）として加えました。

大学のように研究補助者はいませんが、医療クラークに助けをもらい、半年で110名の対象者を登録しました。結果として、大学関連の大病院を除けば、当院が最多の対象者を集めました。今回の英文研究論文では共同研究者名の記載順は対象者数に基づくそうです。田舎の国保病院の英語名称（前任の病院管理者が決めたもの）が、世界の研究者の目に留まるとうれいす。

研究開始後の多忙な中で受けた検診で、右肺に結節が発見されました。経過観察か手術かと尋ねられ、昨年早々に切除をお願いしました。胸腔ドレーンの排液は見るからに栄養たっぷりそうでげんなりしました。退院後は焼き鳥弁当（函館名物ですが、「鳥」と言いながら実際には豚肉）を多く食べました。すると、胆石発作を引き起こし、早々二度目の入院と胆摘術を受けました。同僚が「3回目はないでしょうね」と言いましたが、自分の身体でも分からないことです。実はPSA値が気になっていたのですが、夏に3回目の入院となり、生検の結果は良性でした。

昨年秋、二つの全国学会に参加しました。一つは国保学会（盛岡）で、北海道からの発表は3施設6題。そのうち4題が当院からでした。道国保連の先生と意見交換もできました。二つ目は自治体病院学会（新潟）で、北海道から多くの参加者がありました。直前に坐骨神経痛で跛行状態になり、急遽現地でキャンプ用椅子を購入し、発表直前まで座ってい

ました。それでも跛行しながら佐渡金山を訪れ、車椅子で坑道を見学しました。統計処理で研究に参加していた同僚（理学療法士）に大変お世話になりました。

二つ目の疑問：

私の父は富山県五箇山の出身です。父が幼稚園児の私をそこへ連れて行ってくれた際の話です。当時はたとい親が亡くなくても雪が解けるまでは行けない山奥でした。私はまだ幼稚園バスからの街中の景色しか知りません。城端線の終点からバスに乗り換え、経験したことがないクネクネした山道を登っていきます。窓から峡谷を挟んだ遠くの山の道を見る何かを見つけて、「あんな所におもちゃの車が走っている」と思ったものです。父が「それは本物の車で、このバスが今通ってきた同じ道だ」と教えてくれたときの驚きの情景は今も脳裏に鮮明に残っていますが、その後の旅程の記憶はほぼありません。それが実際のことであったのか、子供時代の妄想なのか、長年確信を持たずにいました。生家の場所もおおよそしかわかりません。父は早死にしており、今もそこを知っていて道案内ができるのは、高岡市の従弟だけですが、膀胱がんを患っています。新潟での学会の後は連休で、五箇山に行くチャンスです。

彼も五箇山にもう一度行きたいとのこと。私も父の生家をこの目で確認したい。お互いにこれが最後だと思っています。城端線の終点駅からの景色、駅前のバス停からホームや電車が見えることも、子供の私にとって意外だったためなのか脳裏に焼きついたようです。今も記憶と変わっていませんでした。おもちゃの車と勘違いした場所は「人喰谷」という難所だと従弟から教えられました。昔は深い谷底が行きかう旅人を食らうかのようなV字谷で、車一台が通れるだけの細い道でした。たまに車が谷底へ（100m以上）転落する事故があったそうです。現在はトンネルができてからは人喰谷を通らずに世界遺産の五箇山合掌造り集落に安全に行け、さらに高速道路もできて外国人観光客で賑わっていました。今回の旅で67年前の情景が本当だと確認できて、はるばるやってきた甲斐がありました。